

3 ワークショップ手法での市政懇談会について

従来の市政懇談会は、地域から提出された事項に対し市側が答え、その後に懇談するという形で行っていましたが、今年度より希望があった地域においては、ワークショップ形式で行うことといたしました。ワークショップ形式で行う地域は、第1回目となる湯口を皮切りに、外川目、浮田、八日市、内川目、花西、亀ヶ森の7地域です。

地域における対話と協働の重要性を認識し、今後の地域づくりに生かすことを目的として、平成28年1月30日に実施いたしましたコミュニティ会議研修会で、「対話と協働により市民総がかりで進める地方創生」の取り組みについて、静岡県牧之原市長から事例報告をいただきました。この研修会の参加者から「ぜひワークショップを取り入れたい」「非常に興味がある」との声を多数いただいたことがきっかけとなり、今年度の市政懇談会へワークショップ手法を導入することといたしました。

ワークショップのテーマについては、地域の課題や現状を踏まえ、市と各コミュニティ会議が協議して設定いたします。参加者は4～5人ずつテーブルに座り、市職員も1人ずつ各テーブルに入ります。進行役のファシリテーターは市職員が務める予定ですが、市長はテーブルにはつかず、各テーブルでの協議の様子を傍聴し、最終的な振り返りの際に総括としてコメントを述べます。

◎ ワークショップ手法での市政懇談会（初回）

1. 日時 平成28年6月13日（月） 午後6時30分
2. 会場 湯口振興センター 和室

ワークショップとは

学びや問題解決、トレーニングの手法で、参加者が自発的に発言できる環境が整った場において、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役を中心に、参加者全員が発言できるよう運営される形態のこと。